

令和5年度吉川市立吉川中学校 学校評価

- ・ 教職員評価の欄については、左下の基準により教職員が自己評価した結果の平均値です。
- ・ 関係者評価は、学校運営協議会委員・保護者等が評価した結果の平均値です。

4 高いレベルでできている。(8割以上の達成状況である。)	3 概ね基準に達している。(6割以上8割未満の達成状況である。)
2 基準には達していない。(2割以上6割未満の達成状況である。)	1 ほとんどできていない。(2割未満の達成状況である。)

- ・ 各項目の内、「児童生徒は・・・」、「学校は・・・」で始まる質問については、児童生徒や学校全般を振り返り総合的に評価しています。

評価項目「組織運営」

NO.	質問項目	教職員評価	教職員評価についての評価の説明及び学校の考え	関係者評価 (4~1)
1	学校は、学校教育目標の実現のため、様々な取り組みに努めている。	3.4	年度当初に校長から示された学校教育目標や学校経営方針が、職員に浸透している。学校教育目標は生徒が生活する指針であるため、すべての教室に掲示し、その実現に向けて職員も生徒も意識し、日々の教育活動を展開している。	3.6
2	教職員は PDCA サイクルのもと教科指導や学級経営・校務分掌にあたっている。	3.4	学年会での情報共有、教科会での話し合いなど常に職員室内で教職員が会話をしている。そのことが「担任王国」にならずに学年・学校としての共通の学級経営にあたることができていると感じる。	3.5
3	学校は事故やトラブルに対してのマニュアルを作成・掲示し、迅速に対応できる体制を整えている。	3.4	学年・学級経営の視点として、「あれから1週間作戦」「2分間道徳」「3人目の声かけ」「退勤4チェック」が示された。具体的、継続することで効果が現れる視点として、粘り強く取り組んでいる。学年セクト等をつくることなく、互いの活動を「見える化」し「報・連・相」を徹底したい。	3.4
4	学校は清掃活動や掲示物等に力を入れるなど、組織的に環境美化に努めている。	3.0	限られた学習空間で生徒が心地よく学習できるように、掲示物や備品使用の工夫を行い、機能的で安全な学習環境の整備に努めている。清掃活動については取り組む姿勢に課題があるので改善を検討する。	3.3
5	学校は小中の連携を図り、小中一貫教育を推進している。	3.3	2つの小学校と連携し、イニシアチブをとりながら小中連携を進めている。特に今年度は総合学習の教育課程に小中一貫の取り組みを組み入れた。今後も実のある小中連携を図っていく。	3.5

評価項目「保護者・地域との連携協力」

NO.	質問項目	教職員評価	教職員評価についての評価の説明及び学校の考え	関係者評価 (4~1)
6	教職員は PTA 活動や地域の活動に積極的に協力し、地域の人材を活用した学習活動を積極的に行っている。	3.0	アフターコロナとして、学校行事や授業を、保護者・地域に公開して、開かれた学校を意識した取り組みを行った。吹奏楽部や市内のローカルな大会といった学校外の行事にも積極的に参加し、地域から感謝されている。	3.3
7	学校は、学校の様子や成果を「学校だより」やホームページ等を活用し、積極的に情報提供している。	3.5	学校だよりや学年だよりを発行し、日頃の教育活動を家庭に紹介し、メール配信システムを使って全家庭に配信している。またホームページ「学校ブログ」を随時更新し、地域の方にとって見やすいホームページ作りを心掛けている。	3.6
8	学校は地域の人材を活用するなど、保護者と地域が連携した教育活動を推進している。	3.1	保護者の相談や要望に丁寧に対応している。現状の中では応じることがむずかしい相談や要望についても、その内容を職員間で共有し、管理職を含めて、職員集団で対応している。保護者や地域の願いを真摯に受け止めたい。	3.0

評価項目「学力」

NO.	質問項目	教職員評価	教職員評価についての評価の説明及び学校の考え	関係者評価 (4~1)
9	児童生徒は、落ち着いて学習に取り組む、学習内容を理解しようとしている。	3.2	学習に対する姿勢は良好で前向きな態度の生徒が多いが、興味や関心・理解度が乏しいためか学習に意欲的でない生徒がいるのも現状である。基礎的な学力を身に付けさせる指導・さらに高度な学力をつけさせる指導など、学力の二極化解消に向けて、個に応じた指導が必要である。	3.4

10	教職員は学力向上を目指し、PDCAサイクルのもと、児童生徒の実態に基づいた授業改善に努めている。	3.3	生徒の学習意欲に応えるため、全職員で各教科の特性に合わせて教材や指導方法を工夫している。ICT 機器などの積極的な活用、学習指導要領についての研修を行い、「わかった」「できた」「もっと学びたい」と生徒が思う授業の展開に努めている。	3.3
11	教職員は一人一台端末を積極的に活用し、ICT 活用を推進している。	3.5	どの教科でも満遍なく活用ができています。今後は学校研修課題にあるように「効果的な活用」を授業改善につなげていくよう「アップデート」していく。あわせてクラス数の増加により大型 TV が不足している。改善を検討していく。	3.6
12	学校は学習ルールを定めて授業を進めるなど、共通理解のもと指導にあたっている。	3.2	「STUDY10」という学校共通のルールを4月に教職員間で確認し、それに基づいた学習ルールを全教員が踏襲している。今後は時代に合わせてアップデートした学習規律を確立していくために教職員間で協議・研修を重ねていく。	3.2

評価項目 「規律ある態度」

NO.	質 問 項 目	教職員 評価	教職員評価についての評価の説明及び学校の考え	関係者 評価 (4~1)
13	児童生徒は、友達や教職員・来校者に進んであいさつをしたり、正しい言葉づかいをしたりすることができる。	2.8	進んで挨拶をしない生徒や挨拶を返さない生徒が見受けられた昨年の現状を踏まえ、登校時から挨拶を行えるよう職員から徹底してあいさつをおこなうことで改善が図られている。今後もさわやかな挨拶や正しい言葉遣いの指導・推奨を進めていく。	3.0
14	児童生徒は、学習のルールや生活のきまり・時間を守ることができる。	3.0	概ね、学習のルールや学校の決まりを守ることができるが、集団活動にふさわしくない行動をとる生徒がふえたのも現状である。学校生活の規律を守るために、全職員による指導の徹底が望まれる。	3.1
15	児童生徒はいじめや意地悪な行為をすることなく、お互いの良さや努力を認め合って、学校生活を送っている。	3.0	大きないじめ案件はないが、SNS におけるトラブルが後を絶たない。今年度はデジタルシティズンシップ教育に力を入れ、学年集会等でも指導を重ねてきた。今後は生徒だけではなく、保護者にも周知する必要があると感じている。	3.0
16	教職員は自ら手本となるなど、児童生徒に対して規範意識を高める指導を行っている。	3.1	様々な場面で、集団の中の個の在り方について指導している。規範意識の低い生徒が増えてきた現状がある。今後も、規範意識の高い生徒集団を作ることで、個々の生徒の規範意識を向上させることが必要である。	3.1

NO.	質 問 項 目	教職員 評価	教職員評価についての評価の説明及び学校の考え	関係者 評価 (4~1)
17	児童生徒は、体力向上に向け、体育の授業や部活動または外遊びに意欲的に取り組んでいる。	3.4	生徒は運動に対する欲求があり、昼休みの外遊びなども盛んにおこなわれるようになった。部活動に意欲的に取り組む生徒も多い。ただ、コロナの影響なのか、体育の授業や部活動においてケガをする生徒が増えている。怪我防止に配慮したい。	3.4
18	学校は、児童生徒の健康管理および食育に関する意識を高めようとしている。	3.3	他校の学校栄養職員の力を借りながら食育について生徒に指導し、バランスの取れた規則正しい食事と健康な体作りを指導していく。コロナ以前の給食方法を再度見直し、生徒が楽しく食事をとることができる体制を整えていきたい。	3.2

評価項目 「生徒指導・教育相談」

NO.	質 問 項 目	教職員 評価	教職員評価についての評価の説明及び学校の考え	関係者 評価 (4~1)
19	学校は、児童生徒の立場に立ち、一人一人の思いや願いを大切に、児童生徒に寄り添った対応をしている。	3.4	生徒の指導については、毅然とした態度で臨むことが必要であるが、生徒の目線に降りた生徒理解を重視している。教員一人での対応にならないよう常に複数での対応を意識し、一人一人に誠意をもって接するように心がけている。	3.5
20	学校はいじめや不登校をなくすため、児童生徒への指導の充実を図っている。	3.4	差別や偏見をなくし、互いの存在を尊重することの大切さを伝える活動を、日々の教育活動で取り組んでいる。人間関係のトラブルなどで、登校を渋る生徒がいる現状がある。生徒指導部会・教育相談部会・学年会などあらゆる場面で情報を共有し、その改善を模索している。	3.3